

NPO 法人 宮城歴史資料保全ネットワーク

(略称：宮城資料ネット)

理事長	平川 新 (東北大学東北アジア研究センター教授)
所在地	〒980-8546 仙台市青葉区川内 41 東北大学東北アジア研究センター平川研究室気付
設立年月日	平成 15 年 8 月 10 日 (最初の活動日) 平成 19 年 (2007) 2 月 1 日 (NPO 法人認証日)
URL	http://www.miyagi-shiryounet.org/
会員数	一般会員：66 名 個人賛助会員：10 名 団体賛助会員：1 団体
年会費	一般会員 3,000 円 個人賛助会員一口 2,000 円 (学生 1,000 円) 団体賛助会員一口 5,000 円

【設立趣旨】

今も地域に数多く残されている歴史資料を、地震などの自然災害や、さまざまな事情による破損や廃棄などの危機から救済・保全するために組織されました。



図1 蔵から史料をレスキュー

【沿革】

2003年7月26日に発生した宮城県北部連続地震を契機に活動を開始しました(図1)。現在は、来るべき宮城県沖地震に備えて宮城県内各地で歴史資料の所在調査を進めています。

【活動目的】

広範な研究者と文化財行政の関係者、さらに地域住民とが協力して歴史資料の保全に関する事業を行い、地域社会における歴史遺産の継承と文化・学術・教育の振興に寄与することを目的としています。

【活動内容】



図3 史料の写真撮影と保全措置 (気仙沼市)

●歴史資料所在調査
市町村等の地域を対象にした歴史資料の所在調査を行っています。



図4 史料目録の作成 (くりはら田園鉄道)

主に個人宅などで歴史資料の置かれている現状を網羅的に調査し、災害時等に救済すべき資料を事前に把握する活動(図2)です。全国的にも先駆的な取り組みとして注目されています。



図2 所在調査で史料を確認

●「一軒型」資料調査

主に個人や組織が所蔵する資料を対象にした保全活動を行っています。資料の保存環境の整備、デジタル撮影による記録、資料目録の作成を行います(図3、4)。

●資料保全活動についての広報・普及活動

上記の方法論について社会的関心を高め、行政や地域住民と協同した新たな資料保全のあり方を普及させています。

【活動上の課題と今後の展望】

●活動上の課題

活動の広がりにともないデータ整理などの作業量が増える一方、その中心的な担い手である仙台地区の日本史教員と大学院生の人数は限定されているため、活動協力者の確保が課題となっています。また、活動の継続には資金が必要なため、会費に加え、諸種の助成金を確保する必要があります。

●今後の展望

1. 文化財保護の協同体制

宮城資料ネットでは、東北歴史博物館や地域住民と協同して、主に未指定の歴史資料の保全を行っています。指定文化財の保護の中心となる行政との連携により、地域に残された文化財全体を守ることができると考えています(図5)。

2. 2008年岩手・宮城内陸地震への対応

6月14日の地震当日の午後から活動を始めました。被災地視察と旧家の確認を進め、6月29日に栗原市栗駒文字地区で総勢30人規模の被災資料保全活動を実施しました(図6)。行政、地域住民との協力により速やかに資料保全活動を立ち上げることができたと自負しています。以後、継続的に被災地域での保全活動を続けています。

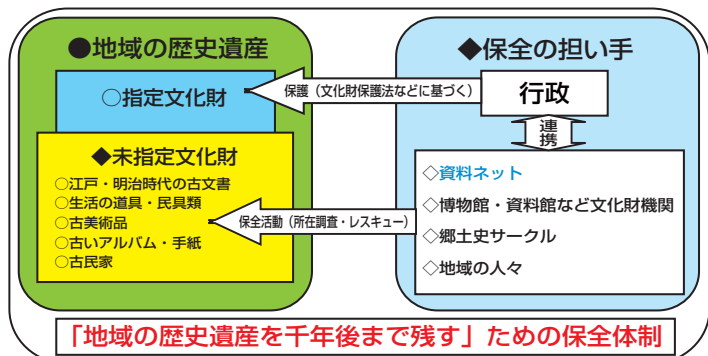


図5 地域における文化財保存の協同体制



図6 岩手・宮城内陸地震後の被災資料調査 (栗原市)